

# 中東情勢に関する関係閣僚会議（第5回）議事要旨

---

（開催要領）

1. 開催日時：令和8年4月24日（金）17:20~17:35
2. 場 所：首相官邸4階大会議室
3. 出席者：
  - ・高市 早苗 内閣総理大臣
  - ・木原 稔 内閣官房長官
  - ・茂木 敏充 外務大臣
  - ・鈴木 憲和 農林水産大臣
  - ・赤澤 亮正 経済産業大臣（兼）中東情勢に伴う重要物資安定確保担当大臣
  - ・金子 恭之 国土交通大臣
  - ・小泉 進次郎 防衛大臣
  - ・林 芳正 総務大臣
  - ・平口 洋 法務大臣
  - ・片山 さつき 財務大臣（兼）内閣府特命担当大臣（金融）
  - ・上野 賢一郎 厚生労働大臣
  - ・松本 尚 国務大臣
  - ・牧野 たかお 復興大臣
  - ・あかま 二郎 国家公安委員会委員長
  - ・黄川田 仁志 国務大臣
  - ・小野田 紀美 経済安全保障担当大臣
  - ・友納 理緒 環境大臣政務官
  - ・中村 裕之 文部科学副大臣
  - ・岩田 和親 内閣府副大臣
  - ・尾崎 正直 内閣官房副長官（衆）
  - ・佐藤 啓 内閣官房副長官（参）
  - ・露木 康浩 内閣官房副長官（事務）
  - ・阪田 渉 内閣官房副長官補（内政）
  - ・河邊 賢裕 内閣官房副長官補（外政）

・市川 恵一 国家安全保障局長

(議事次第)

1. 開会
2. 議事 中東情勢をめぐる状況等について
3. 閉会

(配布資料)

- 資料1 経済産業省提出資料
- 資料2 厚生労働省提出資料
- 資料3 農林水産省提出資料
- 資料4 供給の偏り・流通の目詰まり解消案件

(議事内容)

○木原官房長官

ただ今より、「中東情勢に関する関係閣僚会議」を開催致します。

それでは議事に入ります。出席者の皆様から、順に各省庁の取組状況等について、ご発言をお願いいたします。まず、茂木外務大臣よりお願いします。

○茂木外務大臣

イラン情勢について簡潔に報告いたします。

22日に米国が停戦の延長を発表しましたが、米・イラン間の協議については、次回がいつ、どのような形で行われるのか引き続き不透明な状況にあります。また、ホルムズ海峡をめぐる、米・イラン双方が船舶の拿捕を行う等、緊迫の度合いが高まっています。外務省として、引き続き関連の動向を十分注視してまいります。日本としても、米・イラン間の協議が早期に再開されるよう、外交努力を粘り強く行っていきたいと思います。

先週17日には、「仏・英主催ホルムズ海峡における航行の自由に関する首脳オンライン会合」が開催され、高市総理から、日本としての取組についてメッセージを発出していただきました。今週は、高市総理にカタール、サウジアラビア及びメキシコとの電話会談を実施していただき、エネルギー供給の問題を含め各国との連携を確認していただいたところです。私自身も、英国との間で会談を行い、事態の早期沈静化に向けた協力を続けていくことで一致いたしました。

引き続き、事態の早期沈静化に向けて、関係国との意思疎通及び多国間での取組を積極的に続けてまいります。以上です。

○木原官房長官

次に、中東情勢に伴う重要物資安定確保担当の赤澤経済産業大臣より、ご発言をお願いいたします。

○赤澤経済産業大臣（兼）中東情勢に伴う重要物資安定確保担当大臣

原油については、5月は、過半を越えて、約6割の代替調達の日途がついたところ、更なる調達先の多角化を図り、6月分も更に上回る水準を確保すべく、最大限取り組んでまいります。こうした代替調達の進展により、年を越えて、石油の供給を確保する日途がついているところ、その実現に向けて万全を期してまいります。

「日本全体で必要な量」が確保されている一方で、一部に生じている供給の偏りや流通の目詰まりを、ひとつひとつ確実に解消してまいります。元売事業者からの重要施設向け燃料の直接販売スキームも活用し、118件の案件を解消いたしました。この一週間にも、例えば、手術用器械や医療用ステンレスパイプの製造に必要な潤滑油、学校給食の製造や養殖の稚魚の飼料製造に必要なA重油などのお困りごとを解消しております。潤滑油については、3月下旬以降、一部の流通事業者・需要家による大量発注により供給に偏りが生じましたが、4月17日に関係事業者に対し、前年同月比同量を基本とした供給継続を要請し、目詰まり解消が進んでいるところでございます。接着剤については、3月の生産量も前年同月比0.9%増であり、当面の生産に大きな支障ございません。経済産業省から溶剤等関係事業者に原料となる溶剤の安定供給確保を要請し、サプライチェーン間で供給見通しを共有いたしました。経済産業省の伴走のもと、生産強化や在庫活用を進め、目詰まりを解消して供給を確保できた例も出てきております。また、医療物資についても、特に不安の声の大きい透析資材をはじめ、ひとつひとつ着実に供給不安を解消しております。上野大臣と連携して、医療提供の継続に万全を期してまいります。

国民の命と暮らし、そして経済活動に影響が生じないように、引き続き関係省庁と連携し、万全の対応を講じてまいります。

○木原官房長官

次に、上野厚生労働大臣お願いいたします。

○上野厚生労働大臣

医療物資につきましては、引き続き情報収集と目詰まりの解消を進めております。新たに血液検査分析装置の洗浄剤など5件の供給不安を解消し、昨日の対策本部で報告を行いました。

国民の関心の高い、透析で用いられる資材については、メーカー各社から相談が寄せられていましたが、経済産業省と連携をして、血液浄化器（ダイアライザー）、注射針、透析装置洗浄剤について供給不安を解消し、透析チューブについても、供給元企業に対する優先供給の働きかけやメーカーによる増産により、少なくとも9月末までの全国の必要量に対する十分な供給を確保できました。これにより、透析資材全般について、当面の安定供給を確保しています。その上で、10月以降も安定的に透析資材を供給できるよう、経産省と連携し、透析チューブ等のサプライチェーンを特定し、POWERR Asia（パワー・アジア）などの枠組みも活用しつつ、供給元企業に対する優先供給の働きかけや、海外工場における原材料確保を推進していきます。

あわせて、業界団体と連携し、事業者間での情報交換など相互協力が可能な枠組みの構築を進めていきま

す。

今後とも、透析医療を途切れることなく継続していくため、透析資材の供給確保に全力で取り組んでいきます。

○木原官房長官

次に、鈴木農林水産大臣お願いいたします。

○鈴木農林水産大臣

農林水産省では、農林水産業・食品産業に関連する資材について、流通構造等の実態把握を進めております。このうち一部に供給の懸念があるとの情報を受けまして、「コメ袋」と「農業用マルチ」について、これらの製造事業者と原料の調達状況等について情報交換を実施しました。その結果、国民生活への影響が大きい「コメ袋」については、経済産業省の協力の下、原料メーカーからポリエチレンの安定的な供給が継続される見通しとなりました。「農業用マルチ」も、当面概ね前年実績の供給が可能であることを確認できております。一方で、流通事業者や農業者からは、種々のプラスチック製農業資材の将来の調達に不安の声があるところでありますため、経済産業省と連携して、資材ごとの供給状況等に応じて、今後も引き続きポリエチレン等を安定的に供給するための原料メーカーへの働きかけを行うとともに、農業資材の製造・流通事業者等に対して、調達支障時の関係者との協議と農林水産省への相談、受発注の平準化などの要請を行ってまいります。

○木原官房長官

それでは、最後に、高市総理大臣から御発言をいただきます。報道機関を入れてください。

それでは、高市総理、よろしくお願い致します。

○高市総理大臣

皆さまお疲れ様です。

先週の本閣僚会議の後、カタール、メキシコ、ニュージーランド、サウジアラビアの首脳と電話会談を行いました。こうした外交努力を通じ、事態の沈静化が実際に図られるよう努めるとともに、国際公共財であるホルムズ海峡における日本関係船舶を含む全ての国の船舶の自由で安全な航行、原油及び石油製品の安定確保やサプライチェーンの強靱化のため、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

国内対策として、ガソリン、軽油、重油、灯油などの補助を継続しております。今週のガソリン価格も、全国平均で170円に抑制できています。原油につきましては、「日本全体として必要となる量」は確保できており、年を越えて石油の安定供給の目途がついています。ホルムズ海峡を経由しない原油の「代替調達」は、5月は約6割の確保に目途がつかしました。中東や米国に加え、中央アジア、中南米、アジア太平洋からの原油も届くこととなります。赤澤大臣は、その先の6月の代替調達についても、更なる調達先の多角化を図り、5月の水準を更に上回るように取り組んでください。

また、「流通の目詰まり」についても、中小企業の製造現場や建築現場などで幅広く使われている潤滑油

や接着剤についても、原料卸し、生産メーカー段階までは、前年並みの供給は確認されております。その先の商品卸売以降の目詰まり解消も着実に進んでいます。引き続き、赤澤大臣と金子大臣において、解消に努めてください。

国民の皆様命に直結する医療分野においても、新たに、消毒液の容器、歯科用注射針のコーティング剤など「流通の目詰まり」の解消を着実に進めています。透析資材については、国内生産している血液浄化器の製造用溶剤や注射針の滅菌用ガスなどの原料供給の目詰まりについては、順次、解消しました。海外からの輸入に依存する透析チューブについては、海外の日系生産工場へ、原料となる石油製品を優先供給する調整により、9月までに必要な供給量を確保しました。これにより、透析資材については、当面の安定供給を実現しました。しかしながら、医療の現場では「当面の安定供給」では許されません。上野大臣は、赤澤大臣と協力をして、透析患者の方々の不安を一刻も早く払拭するため「POWER Asia (パワー・アジア)」の枠組みも活用し、10月以降の透析資材の安定供給を確実なものとしてください。

プラスチック製の農業資材は、食料の安定生産や供給に不可欠です。肥料と同様に、今年の春に必要なものは、既にほとんどの農業者が調達済みであることが把握できています。一部調達に不安の声があった農業用マルチシートについても、原料であるポリエチレンの前年実績での供給が可能であることを把握しています。農業用マルチシートやコメ袋を含むプラスチック製の農業資材に関する今後の調達への不安を解消するため、鈴木大臣は赤澤大臣と協力して、資材ごとにきめ細かくサプライチェーンを確認の上、原料メーカーに対して安定供給の働きかけを行い、これは食料の安定供給に支障がないよう万全の対応をとってください。

このように、国民の皆様命や暮らしを支える分野でのお困りごとを、一件一件、着実に解消しています。各事例については、お手元の資料4をご覧ください。本当に茂木大臣には様々な外交努力を続けていただいております。関係閣僚においては、先日の閣僚懇談会で指示したとおり、ゴールデンウィークを活用して海外出張する際には、「原油・石油製品の安定調達及び新たな供給源の開拓」に取り組むとともに、国民の皆様お一人おひとりのお困りごとにしっかりと寄り添い、目詰まりの解消を始め、重要物資の安定供給に全力で取り組んでください。毎日お疲れ様ではございますが、引き続きよろしく願いいたします。以上です。

○木原官房長官

報道の方はご退室をお願いします。

以上をもちまして本日の会議は閉会といたします。ありがとうございました。